

研究主題

豊かに生きる力の育成
～自分を知ることから始めるキャリア教育の実践～

1 単元名 『 情報を生かすわたしたち 』

《キャリア教育の視点》

- ・課題に対して、自分が今、何ができるかを考え、実行する力【課題対応能力】





2 単元の目標

情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたをとらえ、情報が国民生活に果たす役割を考え、表現する。また、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 評価規準

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを理解している。 ② 調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。	① 情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見出し、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたについて考え表現している。 ② 学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。	① 情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことをもとに、多角的に考え、情報化の進展に伴う国民生活における良さや課題について考えようとしている。

4 本単元のねらいと基礎的汎用的能力と育成すべき資質・能力の3つの柱との関連

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
人や社会と かかわる力 (人間関係形成・ 社会形成能力) 	高学年 相手の立場に立って考え、思いやりをもって行動する力	情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを理解している。	
自分をみつめる力 (自己理解・ 自己管理能力) 	・自分の長所短所を理解し、自分らしさを発揮する力 ・自分と異なる意見も理解しようとし、積極的に交流する力		情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
課題をやりぬく力 (課題対応能力) 	課題に対して、自分が今、何ができるかを考え、実行する力	調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。	学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。
将来を考える力 (キャリアプランニング能力) 	・学ぶこと働くことの意義を理解する力 ・将来の夢について考え、実現に向けて設計、行動、改善する力		

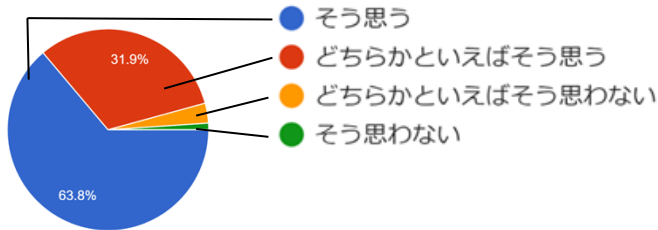
5 部会提案

(1) 児童の実態

【実態調査】 実態調査結果（対象：5年生 94名 4択形式 1月に実施）

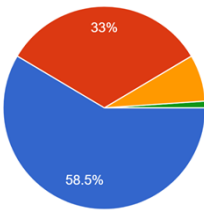
①生活の中で、「情報」がどのような役割をはたしているのか理解している。

94件の回答



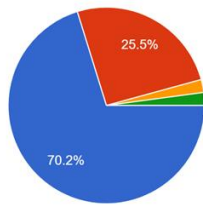
③家で、スマートフォンやタブレット、ゲーム機などでインターネットをよく使っている。

94件の回答



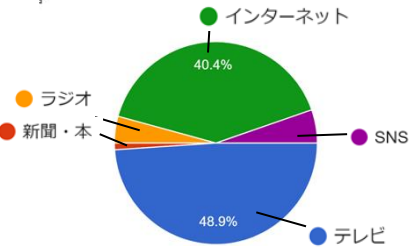
⑤インターネットを活用する際のルールやマナーを理解している。

94件の回答



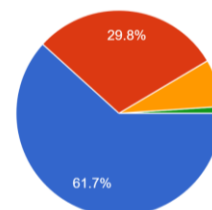
②情報を得るときに、一番活用しているのはどれですか。

94件の回答



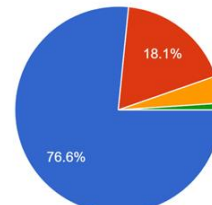
④インターネットをうまく活用して情報を得ることができる。

94件の回答



⑥インターネットが私たちの生活を便利にしていると思う。

94件の回答



(2) 調査結果と考察

本単元「④. 情報化した社会と産業の発展」は、小単元「1 情報産業とわたしたちの暮らし」「2 情報を生かす産業」「3 情報を生かすわたしたち」から構成される。研究授業本時は「3 情報を生かすわたしたち」の終末にあたる。研究授業を行うにあたり、「情報」に関わるアンケートを、単元に入る前に学年全体に実施した。アンケート結果全般を見ると、児童の情報に対する意識や活用のしかたが見えてきた。

「生活の中で、「情報」がどのような役割をはたしているのか理解している。」の問いに対しては、実に95%もの児童が肯定的な評価をしており、日ごろ多くの情報に触れ、それらを活用する意識をもっていることが分かる。「情報を得るときに、一番活用しているのはどれか」という問いに対しては、テレビが48.9%、インターネットとSNSが合わせて45.7%となっており、ラジオや新聞がほとんど活用されておらず、情報を得る手段が限定的であることが分かる。

また、「家で、スマートフォンやタブレット、ゲーム機などでインターネットをよく使っている」という問いに対して、91.5%の児童がそう思う、またはどちらかといえばそう思うと答えており、日常の様々な場面でインターネットを活用していることが分かる。「インターネットをうまく活用して情報を得ることができる」という問いに対しては、90.5%、「インターネットを活用する際のルールやマナーを理解している」という問いに対しては、95.7%の児童がそう思う、またはどちらかといえばそう思うと答えている。これまでのセーフティ教室における情報リテラシーの指導や、各教科でクロムブックを使う際の使い方の指導が実を結び、肯定的な意見が多く出ているのであろう。一方で、今年1年間クロムブックを活用させたときに、調べ学習で信頼性のかける情報を信じてしまっていたり、家庭ではインターネットをつないで行うゲームでのトラブルが起きたりと、まだまだメディアリテラシーを高めていく必要があると感じている。

近年、情報化の進展で生活が便利になった反面、インターネットを利用した犯罪が増加している。便利なツールも、使い方を間違えると人を傷つけることを理解し、ルールやマナーをしっかりと身に付けることが必要である。GIGA スクール構想により、一人一台端末が整備された現在、メディアリテラシーをはじめとする情報教育は、総合的な学習の時間やセーフティ教室などで、低学年から継続的に行われている。本単元は、今までの学びを統合的にとらえ、情報の役割について正しく理解し、情報の生かし方について考えていくことをねらっている。

その際に、「メディアリテラシーを知り、ルールやマナー守り、情報を上手く活用する力」「自分に必要な情報をうまく探す力」「情報化社会において、どのように情報と関わっていくか考える力」を身に付けていく必要がある。これらの力は、まさにキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」である「課題対応能力」であり、本単元を通して伸長を図っていきたい。

目指す児童像

実現 (r e a l i z a t i o n) 努力を重ね、「なりたい自分」に近づく子ども

(3) 目指す児童像に迫るための手だて

【手だて1】：情報の活用について学んできたことを振り返られるように

○学習問題の掲示、スライドによる振り返り

単元を通して学習問題である「わたしたちは、情報とどのようにしてかかわったらよいのでしょうか」を掲示し、情報の活用について常に意識できるようにする。また、これまでの学習で得た知識を定着させるために、授業の初めに必ずスライドを活用した振り返りを行う。振り返り際には、児童と問答を行うことにより、主体的に学ぶ姿勢を育んでいくようにした。

【手だて2】：情報をどのように活用したらよいかまとめられるように








○お互いにクイズを出し合う活動

本時では、今まで学んだことをもとに、情報との関わり方を考え、責任をもって情報を活用していこうとする態度を養うことをねらっている。学びの振り返りの前にお互いにクイズを出し合うことで、情報についての理解が深まると考えた。クイズを考える際にも、解く際にも、情報についての知識を求められ、クイズという形式が、児童の主体性をより高めていくことだろう。

○情報活用宣言

本時の終末では、情報活用宣言をつくる活動を設けた。これまでの情報に関わる学習をまとめ、情報の役割について正しく理解し、情報の生かし方について考えられるようにしていく。

6 指導計画

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	評価 規準	キャリア教育 基礎的・汎用 的能力
学習課題をつかむ 高める(調べる)	1	日ごろの情報の生かし方について話し合い、学習問題を作る。	○パソコンやスマートフォンの利用経験を話し合う。 ○インターネットでできることや普及率を調べ、どのようなことが問題になるか話し合い、学習問題を作る。	◆暮らしの中で、情報がどのように活用されているか着目させる。 ◆普及率の増加とともに、様々な問題が起きていることに気付かせる。 ◆資料から、情報の取捨選択の必要性を理解させる。	【思・判・表①】 【主①】	 
	2	情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか資料をもとに理解する。	○インターネットを利用した犯罪件数のグラフや犯罪を伝える新聞記事の資料などをもとに、原因を話し合う。 ○インターネットで起こる問題を調べ、情報を上手く活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか考え話し合う。	◆インターネットの普及による家庭や社会の影響に着目させる。 ◆インターネットの利用で起こる問題を調べさせる。 ◆受信・発信の際に守るべきルールやマナーを考えさせる。 ◆インターネットを活用する際の留意点について理解させる。	【知・技①】 【知・技②】	 
	3	情報を学習に生かすにはどのようにすればよいか理解する。	○インターネットを利用した調べ学習で困ったり、迷ったりした経験を話し合う。 ○メディアリテラシーの意味を知り、情報を集めるときや読み取るときに大切なことを話し合う。	◆社会科やそのほかの教科の学習でインターネットを利用した際に困ったり迷ったりした経験を発表させる。 ◆メディアリテラシーを身に付けることが大切であることを理解させる。 ◆インターネットを活用する際の留意点について理解させる。	【知・技①】 【知・技②】	 
深める(まとめる いかす)	4 本時	情報をどのように活用したらよいかまとめる。	○これまでの学習をもとに、自分たちの情報との関わり方を振り返り、注意しなければならぬことを話し合い、クイズをつくる。 ○作成したクイズを相互に発表し合い、情報を活用するうえで大切だと思うことを整理して、「情報活用宣言」を書く。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたかを話し合わせる。 ◆「情報活用宣言」を考える際には、具体的な方法を考えられるようにする。	【思・判・表②】 【主②】	

7 本時の学習（4時間扱いの4時間目）

(1) 本時の目標（その教科の目標）

これまでの学習をもとに情報との関わり方を考えたり、情報活用宣言をつくったりすることを通して、責任をもって情報を活用していこうとする態度を養う。

(2) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入	1 情報の活用について学んできたことを振り返る。 ・情報やくらしや産業に役立っている。 ・インターネットによるいじめや犯罪が問題になっている。 ・インターネットの情報は便利だが、全て正しいとは限らない。	・今まで学習してきた内容を振り返る PP ・全体での振り返り	○今まで学習したことを視覚的に振り返られるようにする。
情報をどのように活用したらよいかまとめましょう			
展開	2 わたしたちと情報との関わり方を見直し、よりよく情報と関わるために、クイズを作り、出し合い、情報についての理解を深める。	・発表用の画用紙 ・グループで作成し、全体に発表して解き合う。	○学んだことを生かして、教科書やノートなどをもとにクイズを考えられるようにする。 ○各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたかを話し合わせる。 ● <u>これまでの学びを手がかりに、情報との関わり方において大切にしなければいけないことをもとにクイズを作る。</u> 【課】
まとめ	3 情報をどのように活用し、生かしていったらよいか考え、情報活用宣言をつくる。 情報活用宣言の例 家庭や社会では日常的に情報が活用され、インターネットの活用は便利さをもたらす反面、いじめや犯罪などの問題も起きており、メディアリテラシーを身に付け、ルールやマナーを守って活用することが大切である。	・個人で考えたあとに、全体で共有していく。	○学習問題「わたしたちは、情報とどのようにしてかかわったらよいのでしょうか」に対する答えとして考えさせる。 ○ <u>「情報活用宣言」を考える際には、具体的な方法を考えられるようにする。</u> ●学習したことをもとに、多角的に考え、情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えようとしているか。【態度】